

令和元年度 2級建築施工管理技術検定 学科試験(後期) 問題と解答

※令和元年度学科試験(後期)の問題と解答

令和元年度学科試験(後期)の問題は、試験団体のホームページ等で公開されているので、各自取得してください。令和元年度学科試験(後期)の解答・解説は、この文書になります。

令和元年度 2級建築施工管理技術検定学科試験(後期)

問題	正解	解説
1	2.	可照時間 は、日の出から日没までの時間をいう。
2	2.	昼光率は、屋外の全天空照度に関係なく、 一定である 。
3	4.	劇場の後方部は、エコーを防ぐため、壁や天井に 吸音板 を設置する。
4	1.	耐震壁の壁量は、上階よりも 下階が多くなる ようにする。
5	3.	鋼材は不燃材料であるが、骨組は十分な耐火性能を 有していない 。
6	2.	ガセットプレート は、節点に集まる部材相互の接合に用いられる鋼板である。
7	4.	直接基礎の底面は、冬季の地下凍結深度よりも 深くする 。
8	3.	地震力の算定に用いる荷重は、固定荷重と積載荷重と 積雪荷重の和 である。
9	3.	「支点 B の鉛直反力 = 曲げモーメント ÷ 梁長 = $12\text{kN}\cdot\text{m} \div 3\text{m} = 4\text{kN}$ 」である。
10	2.	曲げモーメント図は、両支点では ゼロ 、荷重の相互間では 直線 で描かれる。
11	4.	一般構造用圧延鋼材は、 SS材 と呼ばれ、一般的に使用される鋼材である。
12	1.	結露防止性試験の測定項目は、 温度低下率 である。(断熱性試験は熱貫流率)
13	2.	ポリウレタン系シーリング材は、ガラスまわり目地には 適していない 。
14	1.	コードカーペット は、パイル糸を畝状に並べて基布に接着した敷物である。
15	2.	雨水桝には 泥溜め を、汚水桝には インバート を設ける。
16	3.	ハロゲン電球は、 高輝度 であり、店舗などの スポット照明 に用いられる。
17	3.	パッケージユニット方式は、 パッケージユニットの熱源機器 で冷温水を作る。
18	3.	高さの基準点は、工事中に破損するおそれがあるので、設置は 複数箇所 とする。
19	1.	再生クラッシュランは、 コンクリート を破碎した物で、品質にばらつきが 多い 。
20	3.	壁の開口部補強筋(異形鉄筋)の末端部には、フックを 付けなくてもよい 。
21	1.	型枠支保工(パイプサポート)の継手は、突合せ継手または 差込み継手 とする。
22	4.	寒中コンクリートの加熱養生中は、 湿潤養生を行わなければならない 。
23	2.	ターンバックル付き筋かいを用いて、 建入れ直しを行ってはならない 。
24	3.	根太の継手は、大引の 心の位置 で突付け継ぎとし、釘打ちとする。
25	2.	シーリング材よりも深い目地は、 バックアップ材 で充填深さを調整する。

令和元年度 2級建築施工管理技術検定学科試験(後期)

問題	正解	解説
26	3.	マスク張りは、 表張りユニット に張付けモルタルを塗り付けて叩き込む。
27	4.	折板葺の棟包みの 水上側 には、雨水を止めるために止水面戸を用いる。
28	1.	ガイドレールは、床コンクリートを 打ち込む前 に、一定間隔で設置する。
29	3.	アルミニウム製建具のアルミニウムに接する小ねじは、 ステンレス製 とする。
30	3.	木部のクリヤラッカー塗りの下塗り材には、 ウッドシーラー を使用する。
31	2.	グリッパー 工法によるカーペットは、ニーキッカーで伸長させながら張る。
32	4.	アンカーピン固定用エポキシ樹脂は、孔の 底面側 から手動で徐々に充填する。
33	2.	近隣の商店や工場の業種の調査は、 解体工事 計画で必要となる事項である。
34	3.	塗料や溶剤等の保管場所は、 独立した平屋 とする。(資材倉庫とは別にする)
35	4.	ガラスは、クッション材を挟み、屋内の乾燥した場所に、 立てて 保管する。
36	3.	総合工程表の立案段階では、各 工事の検査項目 を考慮する必要はない。
37	1.	バーチャートでは、工期に影響する作業やクリティカルパスは 把握しにくい 。
38	3.	品質管理では、試験や検査に重点を置かず、 プロセス管理に重点を置く 。
39	4.	高力ボルトのマークのずれから、トルク値を 確認することはできない 。
40	4.	摩擦杭の周面摩擦力は、 鉛直載荷試験 によって確認する。
41	1.	掘削による周辺地盤の崩壊を防ぐためには、 山留め を設置する。
42	4.	高所作業車による作業では、作業主任者を 選任する必要はない 。
43	4.	コンビニエンスストアなどの百貨店は、 特殊建築物 である。
44	4.	病院の診察室には、採光のための窓は 設けなくてもよい 。(病室には設ける)
45	3.	下請代金の総額が 4000万円以上 の場合は、特定建設業の許可が必要になる。
46	2.	建設工事の請負契約書に、許可の 種類 や許可 番号 を記載する必要はない。
47	1.	労働を条件とする前貸の債権と賃金を相殺する労働契約は できない 。
48	4.	作業環境測定 に関する事項は、新たな職長に対する安全衛生教育で行わない。
49	2.	産業廃棄物の運搬を委託するときに、 運搬の方法 を記載する必要はない。
50	2.	建築設備等検査員は、消防法ではなく 建築基準法 に定められている。